

# 『地域をますます元気に・新事業研究会』

研究員募集説明会へようこそ

事業構想大学院大学  
重藤 さわ子



# 説明会の流れ

- ① 研究会の趣旨・概要説明（20分）
- ② 募集要項、申込み方法の説明（10分）
- ③ 質疑応答（15分）
- ④ 個別相談（残りの時間）

# 事業構想家の育成を目指す、事業構想大学院大学

## MBA Master of Business Administration 経営管理修士

既存の事業あるいは既存のアイデアを分析し、効率化を図り、利益の最大化するよう、経営をマネジメントすることを目的とする。

## MPD Master of Project Design 事業構想修士

事業の根本のアイデアから発想し、理想となる事業構想を考え、実現可能になるようアイデアを膨らませ、構想計画を構築する事業構想修士を育成する。

新規事業開発が目的。

# 育成する人材

新規事業担当者(及び将来携わりたいと希望する者)

事業承継者(及び事業承継予定者、第三者承継を希望する者)

行政や地域組織に属し、社会変革を志す者

ベンチャービジネス、ソーシャルビジネスで起業を目指す者

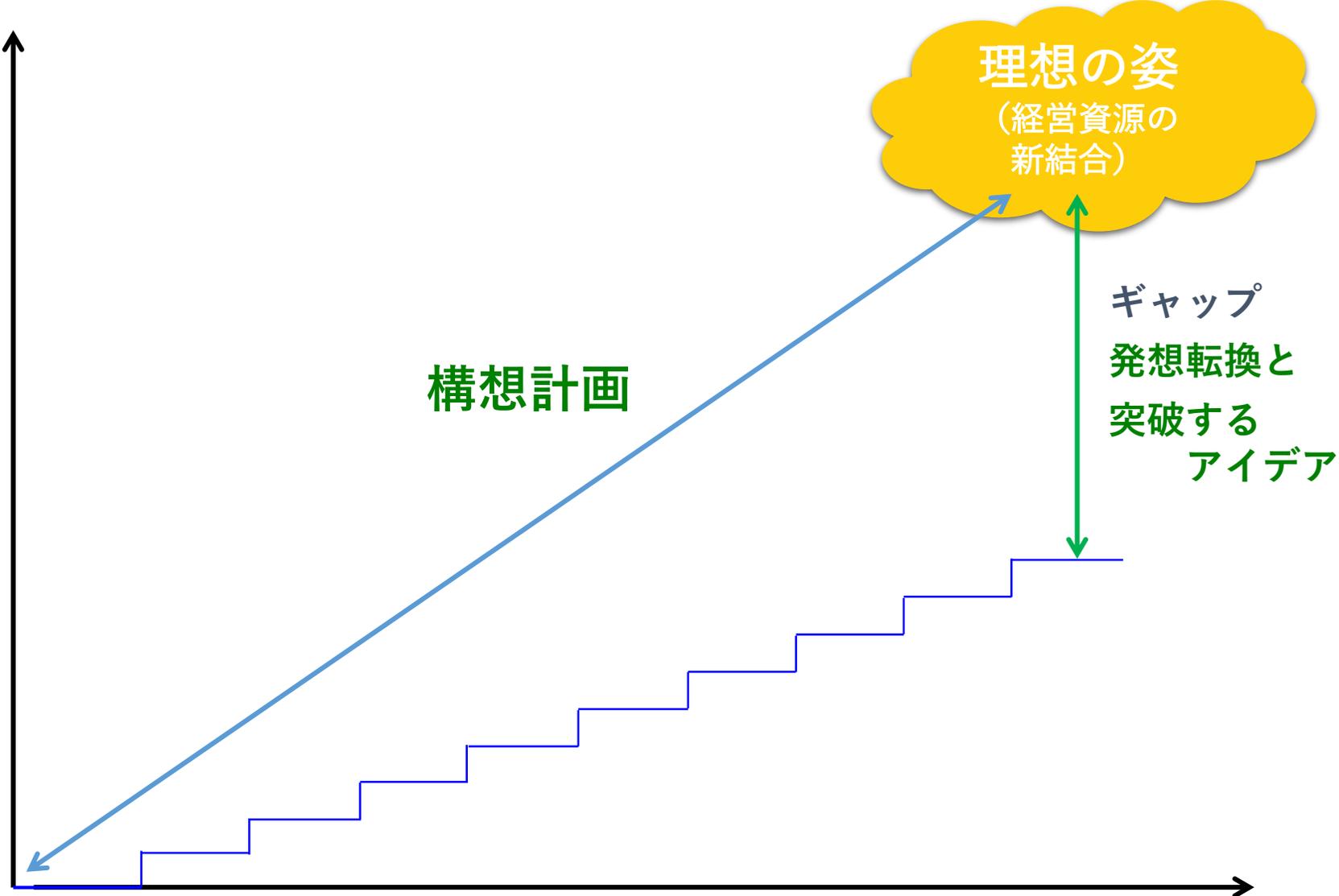
新たな構想により自社を持続発展させたいと考える経営者

# 「事業＝ビジネス」というわけではありません

- 企業・組織は、それが私企業であれ公企業であれ、**設立の目的や使命**（ミッション＝社会の中で果たす機能の表明）を持ちます。
- 企業・組織は、その**持続可能な存続・成長の一環として、ミッションに沿う形で個別の事業を立ち上げ**、営み、あるいは廃止します。それは非営利組織や官公庁などでも同様です。
- すなわち、事業とは、費用と労力を投入し、有形無形の**価値を生み出す活動のまとめり**を指し、営利、非営利、公共、共同、慈善などの種別があります。
- 絶えず変化し続ける環境の中で、事業を持続可能なものとしていくためには、繰り返しのではない、イノベーティブな、すなわち前例のない**創造的な特性**を要求されます。

# 「イノベーションとは非連続の変化」

価値創造  
レベル





事業構想を考え構築する人を育成する  
クリエイティビティを重視した  
従来の枠を超えた  
新しい社会人向け大学院です。

**修士課程2年間**

校舎は南青山。表参道駅から1分

入学定員は1学年90名(4校)の少人数制

# 「地域をますます元気に・新事業研究会」とは？

小田原をますます元気に、魅力的な地域にしていくための**新事業開発**を目的として、事業構想大学院大学が実施する研究会です。6回の研究会を通して、

□ 小田原のありたい未来を描き、

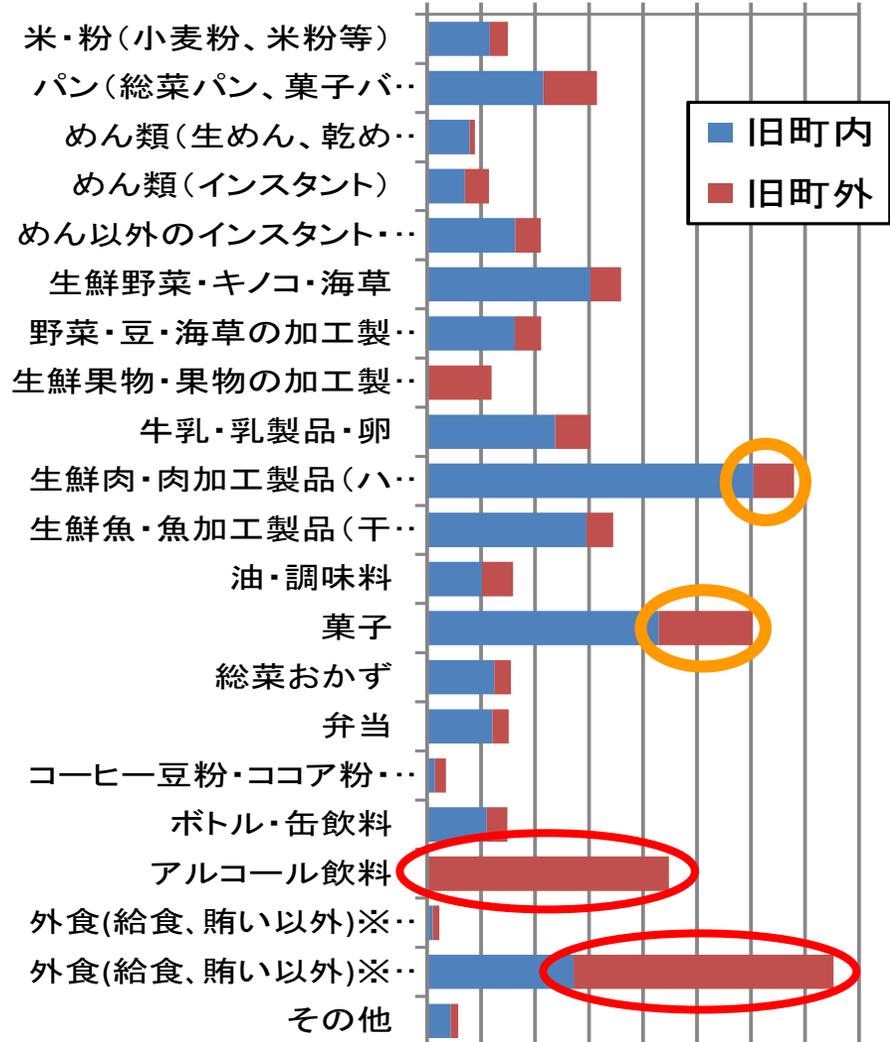
□ 地域にある資源や、皆さまの知見・経験などを最大限活かし、**結び付けていく**ことで、

□ 地域で**新たな価値を創出する事業**を構想していきます。

# 中山間地域でも町外に依存している食料

## 1年間の食費支出

0 1 2 3 4 5 6 7 8 万円



## (1) 食費

購入先で見ると

○外食、アルコールは町外購入が多い  
→1世帯当たり年間約8万円が町外移出

消費額で見ると

○肉類、菓子類などの支出が特に高い  
→町内購入が多いが、町内生産でないため、  
販売手数料除く約10万円は町外移出

## (2) 住居光熱費

○灯油・ガス代など住居光熱は大部分町外  
流出→年間約11万円(○町平均)

注) 藤山浩氏2015年シンポジウム「地域内経済循環からひらく地域の未来」@東工大での発表スライドを一部加工

# 地元購入率が高くても、地元産購入率が低いことも

## 長野県富士見町落合地区の食料・燃料の購入状況

(単位:100万円、全世帯・事業体/年)

項目	域内購入額	(割合)	域外購入額	(割合)	地元産購入額	(割合)
食料	617.8	(60.1%)	410.8	(39.9%)	57.5	(5.6%)
燃料(冷暖房・給湯用の灯油・重油)	118.5	(83.7%)	23.1	(16.3%)	0.0	(0.0%)

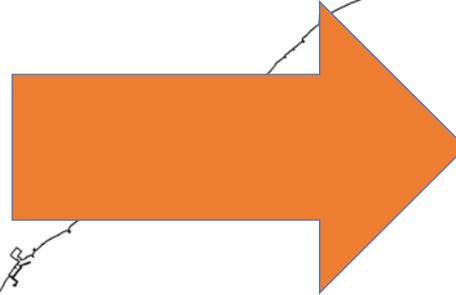
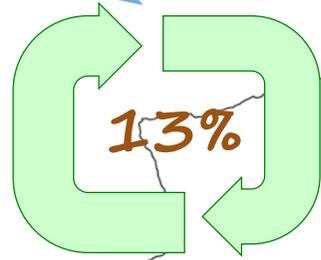
地元産購入率が低い!

品目	域内購入額	域外購入額
米	67.4	17.3
パン	18.9	9.1
めん類	16.1	17.7
粉物・穀類	3.4	5.4
生鮮野菜	61.3	27.5
野菜加工品	24.9	10.3
生鮮果物	24.2	4.4
生鮮肉	56.6	35.3
肉加工品	13.7	8.6
鮮魚	38.7	24.1
魚加工品	9.4	7.5
冷凍食品・インスタント食品	18.4	21.3
牛乳・乳製品	38.2	17.5
油・調味料	33.2	30.9
卵	9.2	4.1
お菓子	51.1	18.3
総菜おかず・弁当など	37.4	14.5
コーヒー豆粉・ココア粉・茶葉等	10.7	6.7
非アルコール飲料	24.6	14.5
アルコール飲料	28.1	38.7
外食	32.1	77.2
小計	617.8	410.8

注) 環境省第Ⅲ期環境経済の政策研究『低炭素・循環・自然共生の環境施策の実施による地域の経済・社会への効果について』研究成果より

# 小田原市の経済流出状況

民間セクター  
の経済規模  
4,578億円に対し



2015年光熱費推定  
約600億円/年  
(多くは域外流出)

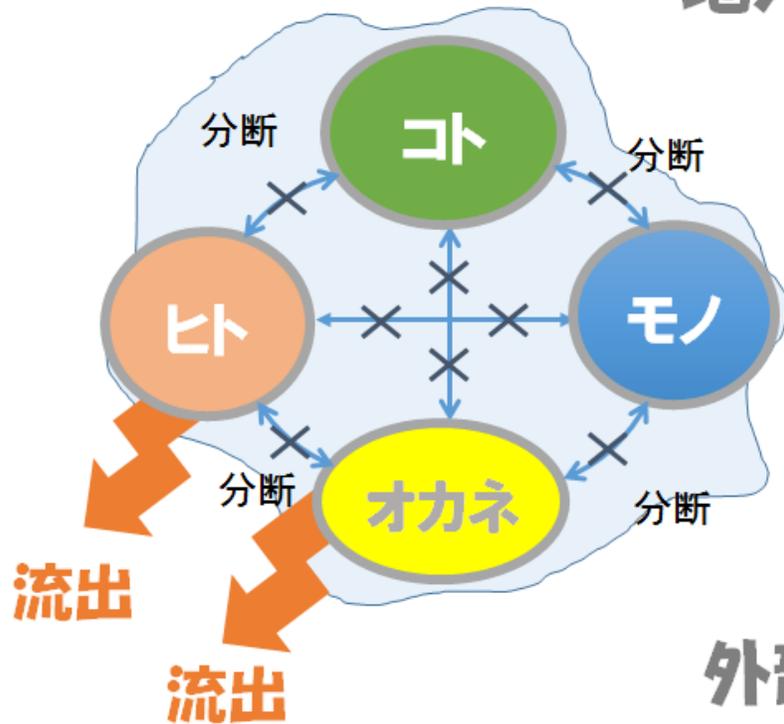
注) 小田原箱根  
商工会議所調べ  
(2016年1月25日発表)

注) e-konzalの市町村別CO2推定と、  
経済産業省都道府県別エネルギー消費  
統計、エネルギー別単価などより、歌  
川学氏(産総研)推定

# 「分断」から「結合」へ

ヒト、モノ、カネ、コトが流出、衰退し、結果として衰退する地域経済

**現状**



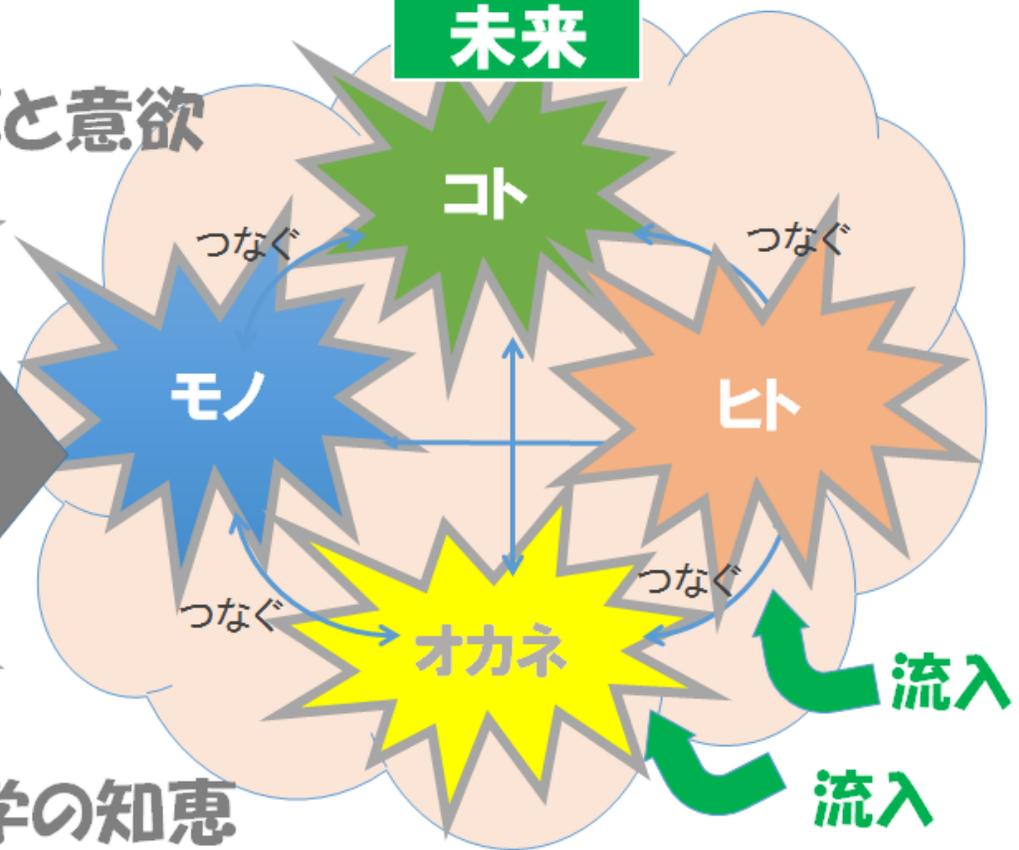
ヒト、モノ、カネ、コトが連結、循環、蓄積する地域循環共生の新たな価値創造シナリオの構築へ

**未来**

地元の知恵と意欲

変える

外部者 + 学の知恵



# 地域資源活用がよくあるパターン



(出所) 政府広報オンライン 暮らしに役立つ情報  
<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201502/3.html>



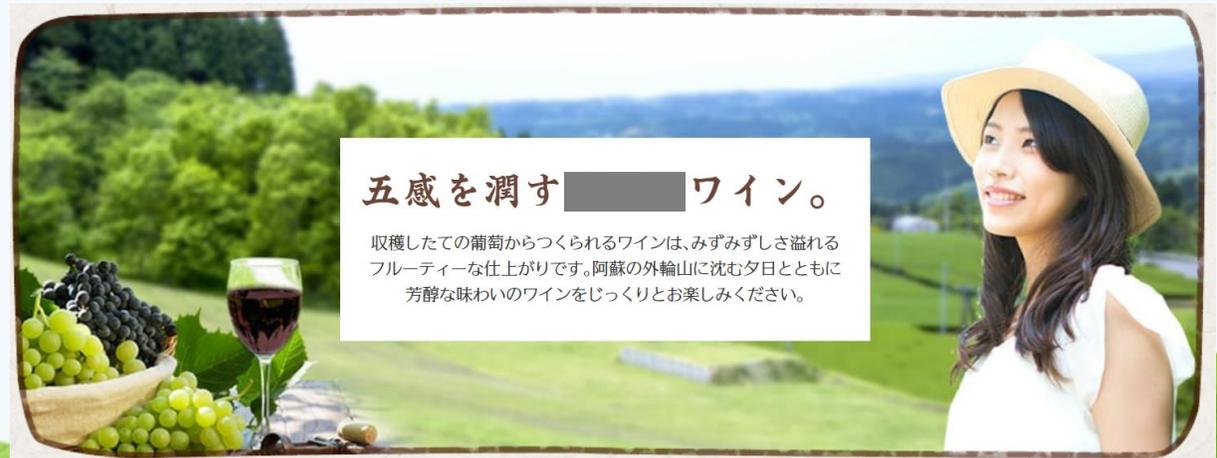
佐賀県白石町  
頭はタマネギ、体はイチゴ、  
レンコンのポシェットに海苔  
と稲穂のかみかざり...白石町  
の特産物が一目で分かる特産  
物PRキャラクター『しろいし  
みのりちゃん』

所属：白石町特産物PR推進協議会



伊勢丹新宿店出店がゴール！？

目の前は茶畑のワイナリー



五感を潤す            ワイン。

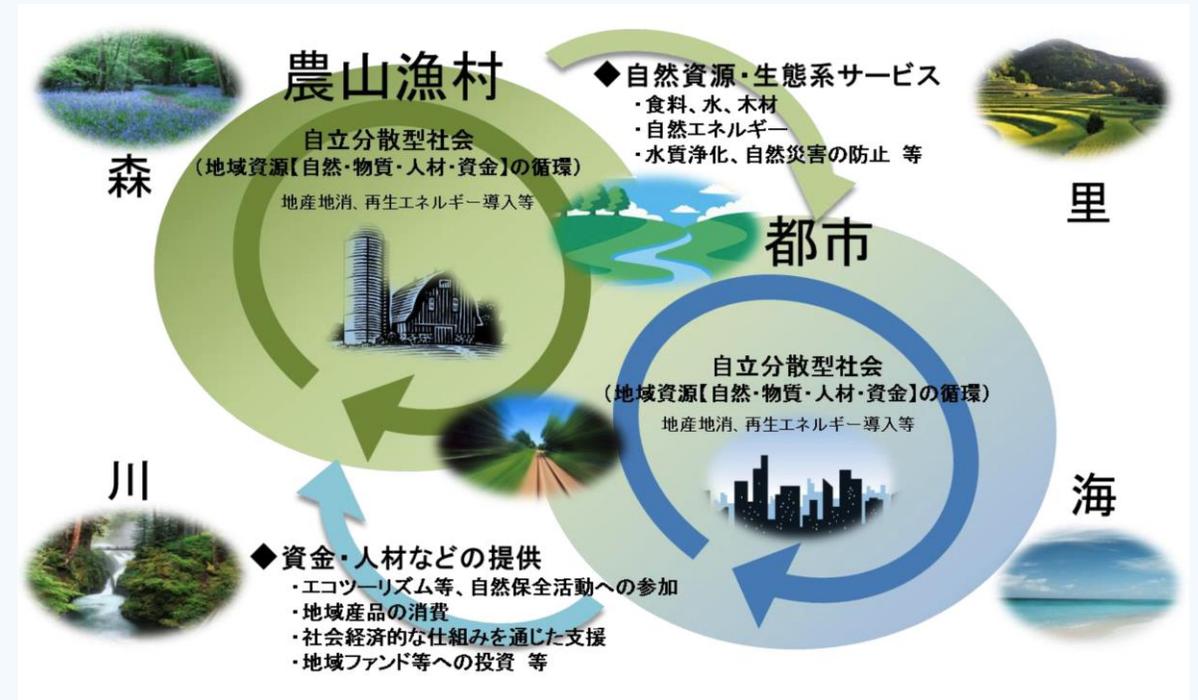
収穫したての葡萄からつくられるワインは、みずみずしさ溢れるフルーティーな仕上がりです。阿蘇の外輪山に沈む夕日とともに芳醇な味わいのワインをじっくりとお楽しみください。

# 多種多様な地域資源

(1) 自然環境：山，森林，川，湖沼，湿地帯，海洋，水，土壌，大気等

(2) 社会的インフラストラクチャー：道路，橋，鉄道，上・下水道，電力・ガス等

(3) 制度資本：教育，医療，金融，司法，文化等



『一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にする』ための資産

出典：宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書、2000年

地域一丸となって、地域の理想の姿に近づいていくために

プラットフォームの  
再構築

共有し  
結ぶ

気づく

アクション  
を起こす

新たな価値に基づく  
事業の推進

地域を変える  
社会を変える

実施期間：2020年1月～3月

実施回数：全6回

時間：4時間／回（10時30分～15時15分）

前半：10分30分～12時30分（120分）

後半：13時15分～15時15分（120分）

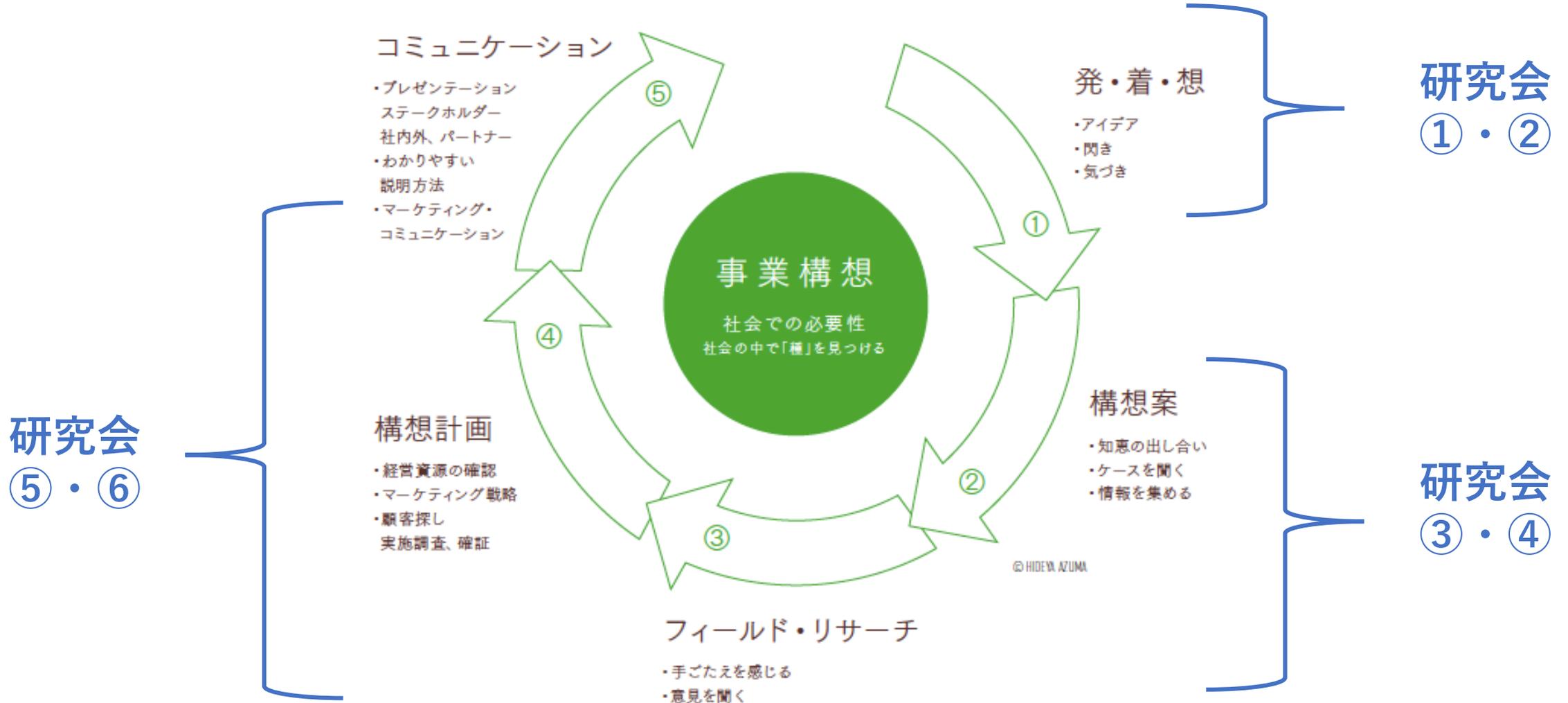
昼食・休憩：12時30分～13時15分（45分）

## スケジュールとカリキュラム

	開催日	カリキュラム（予定）
①	<b>1/20</b> （月）	小田原の資源（経営資源・知見・経験）を見直す・整理する
②	<b>2/3</b> （月）	小田原の理想を描きながら、小田原の地域資源を見直す・整理する
③	<b>2/10</b> （月）	事業アイデアの発表・フィードバック
④	<b>2/17</b> （月）	パートナーシップ・連携による新事業の検討
⑤	<b>3/9</b> （月）	実現可能性に向けた、クリエイティビティ・コミュニケーションの検討
⑥	<b>3/23</b> （月）	最終発表会と実現に向けてのフィードバック

あるべき姿・ありたい姿を描き、アイデアを膨らませ、実現可能な事業構想へと落とし込んで行く

## 事業構想サイクル



# 【各回の進め方】

第1回（1/20）：あるもの探し

小田原の資源（経営資源・知見・経験）を見直す・整理する

## 【前半】

- ・ 研究会の趣旨説明

【ミニ講義】本研究会が目指すもの（重藤）

- ・ 参加者自己紹介

## 【後半】

- ・ 全体ワーク（あるもの探し）
- ・ 振り返り
- ・ 次回迄の宿題の確認



地域を  
歩き、調べ  
（※今回は各自）

まとめ

土の人  
風の人

みんなで  
共有・共感



# 【各回の進め方】

第2回（2/3）：あるもの探しからアイデア出しへ

小田原の理想を描きながら、小田原の地域資源を見直す・整理する

## 【前半】

- ・ 第2回趣旨説明（重藤）
- ・ 全体ワーク  
宿題の確認、あるもの探しへの反映

## 【後半】

- ・ グループワーク  
（小田原の理想と新結合のアイデア出し）
- ・ 次回迄の宿題の確認



エネルギー × 農地

どんな？

どんな？

耕作放棄されそうな

再生可能エネルギー × 水田

何を？

何を？

太陽光発電 × 無農薬酒米 → 日本酒

ソーラーシェアリング

新ブランド日本酒



小田原ならではのストーリー



どんな？

観光 × 農地

どんな？

何を？

体験 × みかん畑

何を？

地域内外からの  
ボランティア ×

無農薬みかん ➡ みかんジュース

ボランティアツーリズム 新ブランド商品

小田原ならではのストーリー



どんな？

福祉 × 製品づくり

どんな？

障がい者自立のための

働く場 × 無添加石鹸

何を？



➔ 新ブランド石鹸

表舞台に出るための  
高付加価値商品



小田原ならではのストーリー

出所) 株式会社リンクラインHP (<http://www.linkline.co.jp/>)

どんな？

ヒト × 商店街 × 水

どんな？

同級生 × 空き店舗 × 真澄の水

何を？

何を？

新会社 × 駅前カフェ・ダイニング × 真澄  
富士見蔵仕込水純氷 × かき氷

真澄  
富士見蔵仕込水純氷

駅前アンテナショップ 地産型新商品開発



富士見ならではのストーリー

出所) 兆しHP (<https://kizashi-station.com/concept/>)

# 【各回の進め方】

新結合のアイデア  
小田原ならではのストーリー

## 第3回（2/10）：事業アイデアの発表・フィードバック 新事業のアイデアを発表し、フィードバックを得る

【前半】 【後半】 研究員による発表（10分程度）＋フィードバック（10分程度）

## 第4回（2/17）： パートナーシップ・連携

【前半】 ゲスト講師の講義  
【後半】 ゲスト講師も交えた  
構想のブラッシュアップ



実現可能性



## 第5回（3/9）： クリエイティビティ・ コミュニケーション

【前半】 ゲスト講師の講義  
【後半】 ゲスト講師も交えた  
構想のブラッシュアップ

# 【各回の進め方】

## 第6回（3/23）：最終発表会と実現に向けてのフィードバック 構想計画を、具体的な実行プランと共に示し、共感を得る



イメージ

### ガラスが創る新たな価値

2019.10.21

富山キラリチーム



#### ガラスが創る新たな価値

「くすりの富山」とともに発展し、ガラス産業、従事者の自立促進、定着化、飲食などによる経済効果で、新たな付加価値を創出し、海外進出による知名度・ブランド力の向上を目指す。ワインなど洋酒では品種別にグラスを替えて楽しむ文化が存在し、食とのマリアージュ（調和）も定着している。富山発のガラスで日本酒の新しい文化を創り、ガラスを軸にしたマッチング事業により産業を振興する。



#### 水がつなく未来の富山

富山は立山連峰から富山湾までを一望できる地勢的特徴を持つ。神通川の治水による「水の流れ」の変化、そして2020年3月に市内南北をつないで開通する ترامが生む「人の流れ」の変化を契機に、プールパールが中心の北部エリアを起点とした未来プロジェクトを構想した。水の生成から蒸発に到るサイクルを市内で体現し、水の豊かさのみならず、地域が育む特産物の成す「まちの豊かさ」を体感できるまちづくりを目指したい。



#### 協創×健康Office

コンパクトなまちだからこそ提供できる価値として「住設近接」と「コミュニティ形成」に着目し、クリエイティビティを採り入れた新しいライフスタイルの構築を提案した。美味しい食と大規模自然災害の少ない環境を有する富山に独立系フリーランスを呼び込み、共同農業とデスクワークの兼業で緩やかな就農の提案や、スポーツを通じた健康増進プログラムを提案。フリーランサーの「聖地」となる持続的なまちづくりを目指す。

# 講師兼ファシリテータ：重藤 さわ子

## 専門領域

地域経済・資源論、温暖化対策と地域活性化、  
研究開発評価・マネジメント

## 学位

農学修士, PhD（農業経済） 英国ニューカッスル大学

## 略歴

京都大学農学部卒業、同大農学研究科修了。英国ニューカッスル大学、農業・食料・農村発展学部にてPhD取得（2006）。東京農工大学21世紀COEプログラム研究員（講師）、同大生物システム応用化学府、産官学連携研究員を経て、2008年より科学技術振興機構（JST）・社会技術研究開発センター（RISTEX）、アソシエイトフェロー。2013年4月から東京工業大学グローバルリーダー教育院特任准教授。2018年4月より現職。